

**【要約】**

- 原子力に関するメディアの主張は情緒的に過ぎ、根拠は大抵“福島事故”からの教訓である。福島を神棚にあげて、自由な発想を拘束する。国民を衆愚扱いしている。

「ソピアの法則」(1)

— 原子力国民会議は提唱する —

1. ソピアの法則のゆえん

“ソピア”とは**ソクラテス**、**ピタゴラス**、**アルキメデス**、の頭文字を取ったものである。ソクラテスは紀元前 399 年に、アルキメデスは紀元前 212 年に、ピタゴラスは紀元前 496 年に没した。それぞれ歴史に残る偉大な業績を残している。

ソクラテスは、真、善、美を追求することを重視し、“問答法”を考案し、デルフォイ神殿の神託を契機に「無知の知」を悟り実践手段とした。その活動によりソクラテスは西洋哲学の祖に位置付けられている。彼はまた言葉の中の論理を大事にした。ちなみに、伝統的命題論理学を完成させたアリストテレスはソクラテスの弟子である。

ピタゴラスは 2400 年前「ピタゴラスの定理」の発見したことで有名である。森羅万象の中に、幾何学のような真理の発見に努力した。一見妥当に見える反原発の主張の中に、どれほどの真実があるのか、何がまやかしか、を見抜く手がかりをピタゴラスは与えてくれる。

アルキメデスは「アルキメデスの原理」で有名である。王冠の中に金以外の不純物が混じっているかどうかの判定方法や“てこの原理”を発見した。当時、ローマとカルタゴは第二次ポエニ戦争（前 218～201 年）を戦っており、彼は“てこの原理”を使った兵器を考案しローマ軍を大いに悩ませた。アルキメデスの業績は科学・技術の進歩を象徴する。日本の反原発派は原子力技術の進歩に目もくれず、事故の可能性を指摘するだけで原発否定を説く。例えば、航空機は保全工学の進展によって事故を著しく減らした。技術の進歩が安全性を高める良い例であるが、メディアは原発否定に都合の悪い情報は絶対に報道しない。日本のメディアは世界の常識を無視して平然としている。このようなアルキメデスの思想に親しみ、安全の本質に触れれば原子力安全に対する不安は相当に緩和されるはず。

2. ソピアの法則の動機

では何故、ソピアの法則を提唱するか。それは、メディアが原子力の実態を正しく伝えず、国民の間に多くの誤解をもたらしている事実にある。原子力の有効活用が阻害されている理由はメディアの公正でない報道にあるといっても過言ではあるまい。事故原因の一端は福島事故原因のあら捜しをしてきたメディアの報道姿勢にこそ求められるのではないか。ソピアの法則はその検証に有用である。

言論の自由は戦後 70 年間保障されてきた。その中で、メディアは当初社会正義の維持に向けしっかりした役割を果たしていた。それが今気付いてみれば、抑制機能を欠いたメディアは、商業主義を第一優先にせざるを得ない固有の事情に加え、あつてはならない自らの野心の実現に腐心している。その帰結として、メディアの体質は劣化の一途を辿るばかりである。若者のメディア離れがそれを象徴している。抑制機能のない組織は政権に限らず必ず腐る、というのは真実である。これに対し、国民はメディアに対しいかなる抵抗手段も持たない。これでよいはずはないという思いが、“ソピアの法則”を思いついた理由である。偉大な先人たちの普遍的な真理はメディアのまやかしの摘出に役立つであろう。「小粒でもピリリと辛い山椒」の如くかつ「針ほど願って棒ほど叶う」ことになれば望外の幸であろう。

3. ソピアの法則とは

要すれば、ソピアの法則は、

- 1). まず、問答法に基づいて主張の問題点と矛盾を明らかにし、
- 2). 次いで、そこにあるべき対象の本来の真実は何かを幾何学の定理を探究するがごとく追求し、

3). 最後に、原子力の安全問題は技術の進歩によって解決され得ることを示す、ことにある。ソピアの法則は、原子力社会現象の矛盾、とくにメディアや原発潰しに躍起になっている原発反対派の矛盾を的確に突くことができるようにしたい。

以下に、福島事故に触発された国民の“原発忌避感”の本質を以下の対話で明らかにしてみたい。

4. ソピアの法則で何が説明できるか－原発否定論（ソクラテスの問答法）

- **太郎**：最近、ゼロ原発の声が高くなっている。その契機は、福島事故の悲惨さと太陽光発電の急成長にあるように思うがどうだろう。
- **花子**：同感だわ。しかし、報道は福島事故の水素爆発に過剰に反応しすぎたような気がする。その結果、反原発感情が国民に行きわたった。原発否定論者が増えたのは当然だわ。加えて再生可能エネルギーの太陽光発電が国民に夢を与え始めているのも大きいと思う。小泉元首相は、日本には原発は不要で自然エネルギーだけでやれると吹聴している。私たちは事情がよく判らないせいか、彼の言い方は判りやすく引き付けられることは確かだわ。
- **太郎**：そのような捉え方は情緒的すぎないか。小泉氏は技術のことは素人のはずなのに、科学的に正しくないことを政治的・情緒的に語り、ゼロ原発が唯一の選択肢だと言い張っている。あなただったら彼のウソは見抜けると思うよ。彼は原発がゼロになったらどうなるか、説明しないし説明できない。つまり、無知であることに気が付かない典型的な“夜郎自大”と言って良い。プラトン著の「ソクラテスの弁明」でも読んだらどうだといいたくなる。
- **花子**：元総理が嘘つくなんて、あってはならないわ。彼の主張が正しいか、友達とも話し合ってみるわ。
- **太郎**：福島事故の金縛りにあって日本の将来を近視眼的に選択するというのは歴史を知らない証拠だと思うがどうだろう。例えば、右手が火事なのに、上下の道にも逃げられるのに一方的に断崖絶壁に通じている左手の道に逃げることになっていないか？ 歴史を知っていればそこから学んでどういう選択が正しいか参考になるはずだよ。ソクラテスは物事の真偽問題は“比較”によって判断するのが賢明だと言っている。例えば、戦前、日本はエネルギー不足のため止むを得ず太平洋戦争に突入し、350万人を死なせた。福島事故では一人も死んでいない。チェルノビル事故を経験したウクライナは上手に事故を克服し、今では15基の原発を稼働させ、エネルギー安全保障を確実にした。それと比較すれば、日本の現状は嘆かわしいと言えないか。この異常の原因がどこにあるか、敵もさるものと思ひ注意しなければ、坂を駆け落ち始めた日本の衰退に歯止めはかけられないだろう。メディアからインタビューを受けた有識者の多くは「話したことは大抵曲げられて報道される」と嘆いている。メディアは国民を軽く見ていると思う。
- **花子**：メディアに期待してはいけないのね。若者でそういう人は多いわ。残念だわね。メディアにはエネルギー安全保障という死活的に重要な問題について正論を報道して欲しいのに。エネルギー危機は事故どころではないものね。今まで、原発の悪いところばかり知らされていたような気がしてきた。これではまずいわね。ところで、小泉元首相は原発なくても太陽光発電で困ることはないと言っている。本当はどうなの。
- **太郎**：太陽光発電・風力発電が望ましいことは自明であるが、夜には発電できないし風が吹かないと風力発電もだめ。つまり再エネには限界がある。このことを自然エネルギーは自立できないという。十分な量のバッテリーがあればよいが、日本全体を賄うには千兆円近い蓄電設備を20年ごとに更新しなければならぬ。不可能なのは目に見えている。要するに再エネは基幹電源になれないということ。基幹電源は、原子力を嫌えば火力しかない。しかし、火力をどんどん焚けば、温暖化や異常気象が待っており、人類はやがて滅亡する。米国の著名な環境学者ダイヤモンド氏は、人類は地球温暖化で滅びても、原発事故で滅ぶことは無いと警告している。日本もこの夏、40度を超えた。来年45度に、翌年50度になったらどうなる。人間が生きていくのに適した気候条件が過剰なCO2の排出で異常になってきた。温度の異常上昇で人類が滅亡するのはあり得ることだ。私は子や孫がもがき苦しんで死んでいく地獄は見たくない。
- **花子**：判ったわ。太陽光発電に全面的に頼ることはできないのね。それなら、再エネ、原子力、火力発電の組み合わせをすれば良いのではないのでしょうか。
- **太郎**：そう思うのが普通だよ。しかし、原発反対派は別の恐ろしい狙いを持っていて、再エネ、火力、原子力のベストミックスに賛同しない。原子力を国民の敵にしておく必要があるから。原発が選挙の争点になれば野党は勝てると思っているからさ。菅直人はそう公言しているよ（産経、2018/1/28）。政権交代は原子力を政治的に利用するしか方策はない、というのが反原発派やメディアの狙いだよ。このことを日本人は知っておく必要があるよ。
- **花子**：それって恐ろしいことなのね。原子力を利用して政権取ったらどうなるの。先の民主党政権、鳩山内閣、菅内閣、の失政を思うとぞっとするわ。私だって、二度とあのような政権は見たくないもの。立憲民主党の枝野党首のあの時のパ

パフォーマンスは絶対いや。多分、中国や北朝鮮の属国になるような気がするわ。原発問題がとても重要だと判った。太郎さんのおかげです。

- **太郎**：さらに言えば、世界の人々は、原発は慎重に扱えば安全だということを知っている。知らないだけでなく、大きな誤解を与えられているのは日本人だけだよ。メディアが情報を汚染して流しているから当然さ。何故、日本人だけが原発を極端に不安がっているのか、原発問題の要はここにある。現在 430 基が世界で安全に運転されている。反対派は中国の原爆は容認できるが、米国のそれは悪魔の原爆だと言っていた。原産協会の資料によれば、世界は 43 億人の人が原発を望み、4 億人が望んでいない。メディアはこんなことに一言も触れない。おかしいと思わない。
- **花子**：それってどういうことなの？
- **太郎**：1 党独裁国や非人権国家には日本のメディアみたいな組織は存在しないから、原発推進に邁進できる。日本のような皮相的民主国家は、人権が十分に尊重されない中国、ロシアなどの非民主国家にもう完全に負けている。このことは建設中・建設予定の 166 基の大半はロシア・中国が建設することになっていることから明らかだよ。
- **花子**：日本は原発先進国ではなかったの？ この急激な原発衰退はどうして起きたの？ 原発を日本の目玉産業にしていけないと、日本の将来は危ういのでは？
- **太郎**：そう思うのが普通だよ。日本を陥れたい反日組織は大抵反原発で、日本の原発潰しは彼らが友好国と思う国を助けることになる。日本の原発はだめだけれど、韓国中国の原発は推進されるべきだと公言している。原発の背後に潜んでいる恐ろしい狙いに目をつぶっていいものか？ いつまでも福島におびえていては彼らの思うつぽになり、福島どころではなくなるよ。
- **花子**：よく判ったわ。しかし、世界の調査機関は、世界の太陽光発電量はうなぎのぼりに増加しているという。日本も太陽光発電の設備容量は原子力を超えたとメディアは喧伝しているわ。原発なんかいらんのでは？
- **太郎**：その見方は正しくないよ。モンゴル高原でテント暮らしをしている人のことを思えば、風力発電、太陽光発電で夜数時間でもよいから電気がつけばどれだけ便利になるか、計り知れない。このような需要は世界には無限にある。従って太陽光発電設備がうなぎのぼりに増加するのは当然さ。誤解してはならないのは、しかし、その電気は低品質だということ。まず安定供給が望めない、欲しい時に得られない。しかも常時変動する。日本の産業界が必要としている電力は高品質である。このことに目をつぶって、自然エネ礼賛は人が好過ぎる。ほどほどにした方が良いのでは。
- **花子**：朝日や NHK などは、原子力は世界的に衰退の一路をたどっているといい続けている。それが嘘だということは統計から自明で私も判る。何故国民を騙すようなことをいつまでも言い続けるのか、変だわね。しかし、現在の電力供給状況を見ると原子力はなくても良いのでは？
- **太郎**：現在の電力供給は約 80%が火力で、13 %程度が再エネ（太陽光発電は 5 %程度）である。規制委員会の審査が遅れているため、原発は数%しか稼働していない。原発が嫌いな人はこの状況を好ましいでしょうが、油代は毎年 3～4 兆円失っているよ。このお金を福島につぎ込めば、避難民全員が幸福に住めるウクライナのスラブチツ市は簡単に作れ、福島事故は既に解決していただろうに。原発を動かしながら安全対策を進めていくのが世界の常識なのに、日本の規制委員会は専門能力が高くないためメディアに迎合している。石橋をたたく行政しか実施できないという実態が問題で原子力衰退に拍車をかけている。

以上の問答は、ソクラテスの問答法のつもりであるが、稚拙だという批判は免れまい。それにも拘らず、この種の議論は、本質を突いて目から鱗が落ちる場合もあり捨てがたい。本稿ではメディアが如何に問題かを指摘した。

最後に、ソクラテスの問答法に論理学の否定式という推論公式を付加したい。それは『朝日や NHK のいうことが正しければ、世界は原発廃止に向かっているはず。しかし、現実には世界で 69 基の原発が建設中、98 基が建設予定である。それ故、朝日や NHK の主張は間違っている』という推論である。これは誰も否定できない論理学の論証である。